



子どもたち一人一人が笑顔ですごす学校をめざして



1、漢字の問題です。

学校の渡り廊下に、漢字クイズの問題を貼っています。

これは少人数指導の綾部先生が、子ども達が学習に興味をもって取り組むように、工夫した「漢字のたし算」の問題です。

それでは、いくつか問題を見ていきましょう。

【問1】
ヒント：口道

糸
+
田
□

【問2】

立
+
木
見
□

【問3】

ル	世	目	ナ
隼	サ	十	ク
ニ	木	木	一
+	目	一	レ
□	□	□	□

2、漢字を学ぶ意味は

学校ではどの学年も「漢字」などを書く学習を行っています。小学校の学習の中で「漢字学習」は大きなウェートを閉めているといってもよいでしょう。では、なぜ漢字の学習が大切なのでしょう？漢字を学習することでどのようなよいことがあるのか考えてみましょう。

- ① ものごとの理解が深まる。人は言葉で物事を理解します。語彙が増えて言葉が豊かになれば、ものごとのイメージしやすくなります。漢字はそれ自体意味をあらわす「表意文字」です。「手を合わせてひろうから『拾う』なんだな。」

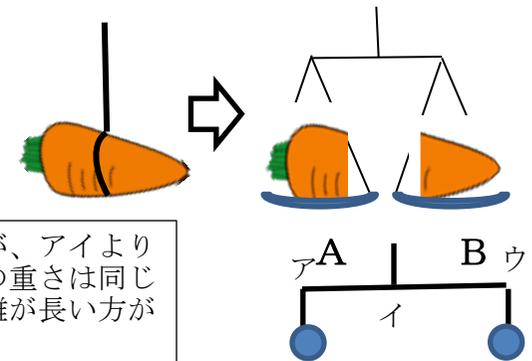
- ② 読書が好きになる。知らない字がたくさんあると、本をすらすら読むことが難しくなります。知っている字が増えるとすらすら読めるようになり、本を読むことが楽しくなってきます。
- ③ 作文の力が伸びる。自分の考えをもったり深めたりするときも、私たちは言葉を使ってします。書く力（表現力）が伸びると考える力（思考力）も伸びます。
- ④ ものごとの正しく認識する力が伸びる。低学年の子が6年生で学習する漢字を見ると「線がたくさんあってごちゃごちゃしているなあ。」と感じます。その漢字は線が何本あって、その中で一番長いのは何番目で、線の方向はどうなっているのか、線のどことどこがくっついていて、どこが離れているのか。そんなことを正しくとらえる力（認識力）が育ちます。「親」という字は「立」と「木」と「見」からできていて「立」が左上、その下に「木」、右に「見」を左と同じ高さで書く、ということが理解できてはじめて書けるのです。漢字はこのように物事を分解したり合成したりする力も伸ばします。
- ⑤ 集中力や姿勢を保つ力をつける。漢字を練習するときは④のことをよく見て、注意深く書いていきます。その中で集中力がつきます。また、字を整えて書くためには姿勢をよくして書くことが大切です。(机とおなかは一箇所分ける。ひじを机にのせない。足の裏は床にぺったん) 姿勢を保つ筋力をつけます。

3、漢字の学び方

- ① 繰り返しやるドリル学習
いっぺんに覚えることは難しくても、繰り返しやることで身に付いてきます。1週間に1回、2時間やるよりも、毎日15分ずつやる方が定着します。
- ② 興味をもたせる工夫
漢字は表意文字です。漢字の成り立ち、意味、4字熟語、ことわざなどに興味をもって学習するとよいです。
- ③ 読める⇒書ける⇒使うへ
せつかく覚えても使わなければ忘れてしまいます。本や新聞を読んで分らない漢字や言葉が出てきたら、3年生以上はさっと辞書を引く習慣をつけることも大切です。

前号のクイズの答えです。

Q：1本のエンジンを糸でぶら下げて、水平になるようにします。糸をつるしたところから左右に2つに切ると、切ったエンジンは左右、同じ重さでしょうか？



正解：Bが重い⇒支点イから端までの距離が、アイよりもウイの方が長い。左右の重さは同じでも視点から端までの距離が長い方が重くなります。